

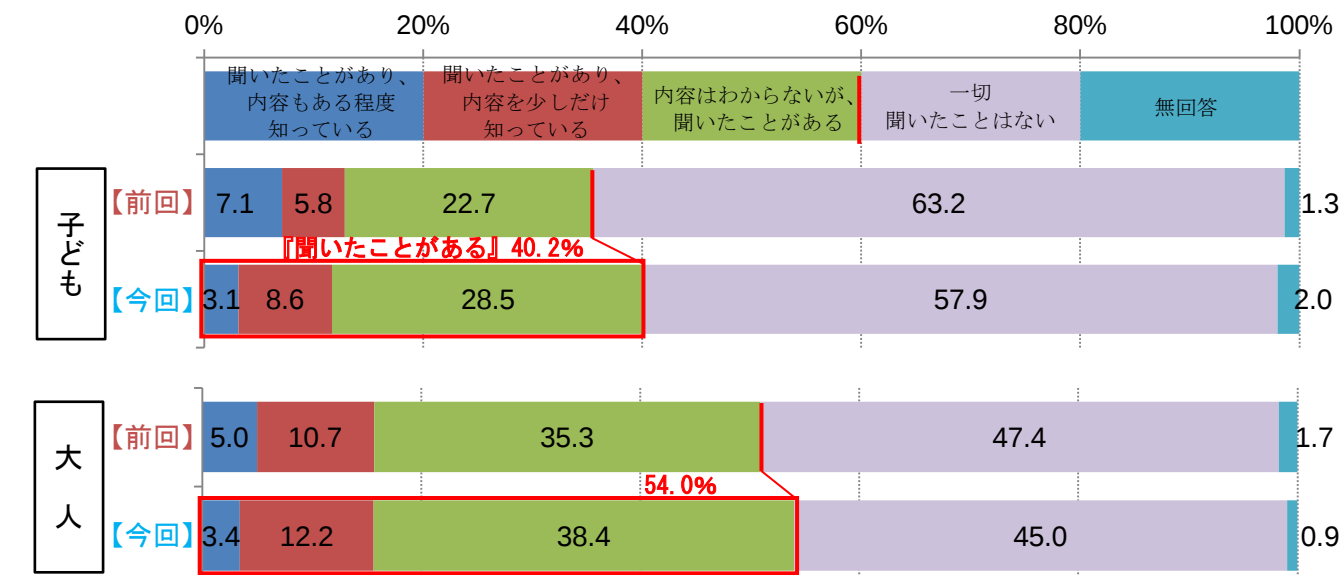
1 調査概要

- (1) 調査目的 札幌市における子どもの実態や、子どもを含む市民の意識を把握し、「子どもの権利に関する推進計画」策定に向けた基礎資料とすることを目的として実施。
- (2) 調査対象
- ・子ども：10～18 歳 5,000 人（10～12 歳：1,603 人、13～18 歳：3,397 人）
 - ・大人：19 歳以上 5,000 人
- (3) 調査期間 平成 25 年 12 月 20 日（金）～平成 26 年 1 月 15 日（水）（前回平成 22 年 3 月）
- (4) 回答結果

	10～12 歳	13～18 歳	大人	合計
発送数	1,603	3,397	5,000	10,000
回答数	770	1,098	1,687	3,555
回答率（前回）	48.0%（46.9%）	32.3%（33.1%）	33.7%（39.4%）	35.6%（38.5%）

2 主な調査結果

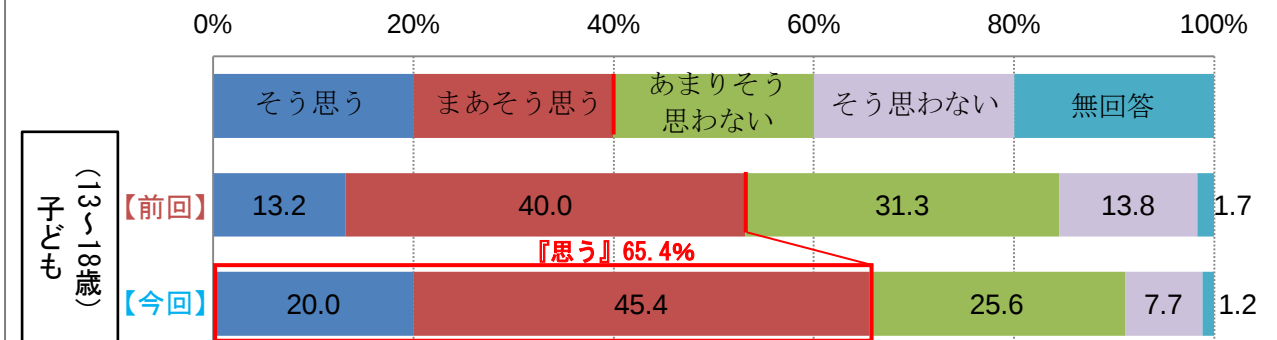
(1) 子どもの権利条例の認知度



- 子ども（10～18 歳）では、条例を『聞いたことがある（■・■・■の合計）』と回答した割合が 40.2%と前回から 4.6 ポイント上昇した。
- 大人は『聞いたことがある』と回答した割合が 54.0%と前回から 3.0 ポイント上昇した。

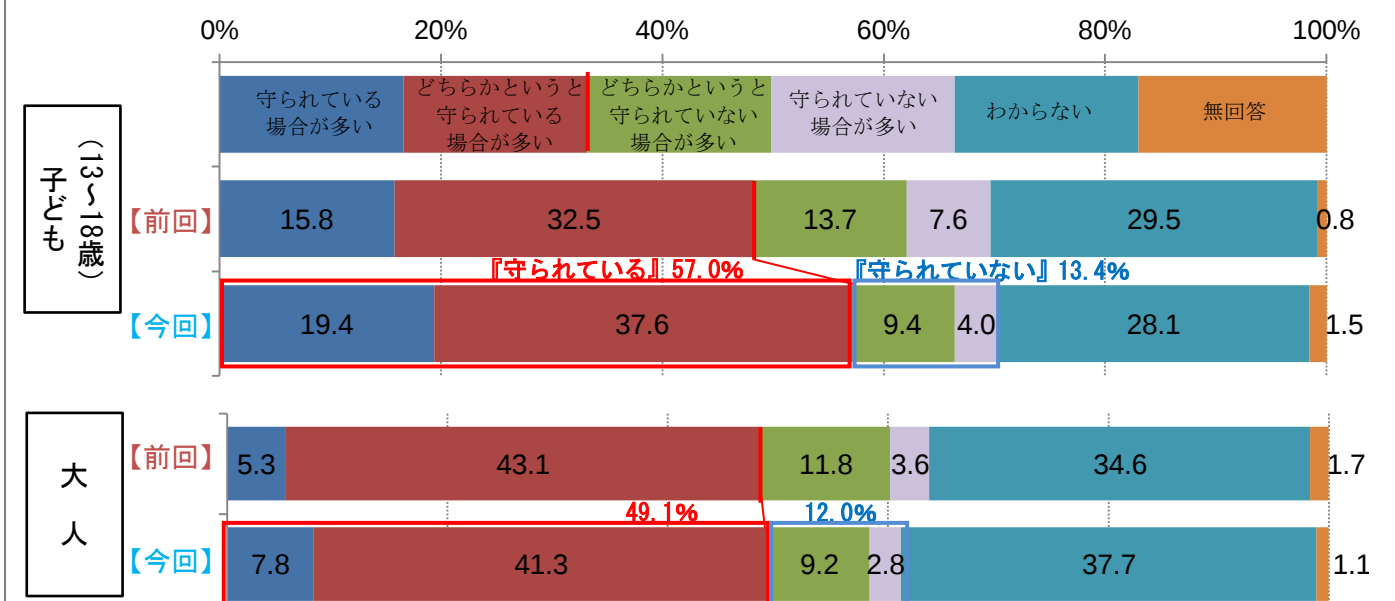
(2) 自分自身のことについてどう思うか（子ども 13～18 歳のみ）

問「良いところばかりではないが、自分のことが好きだ」



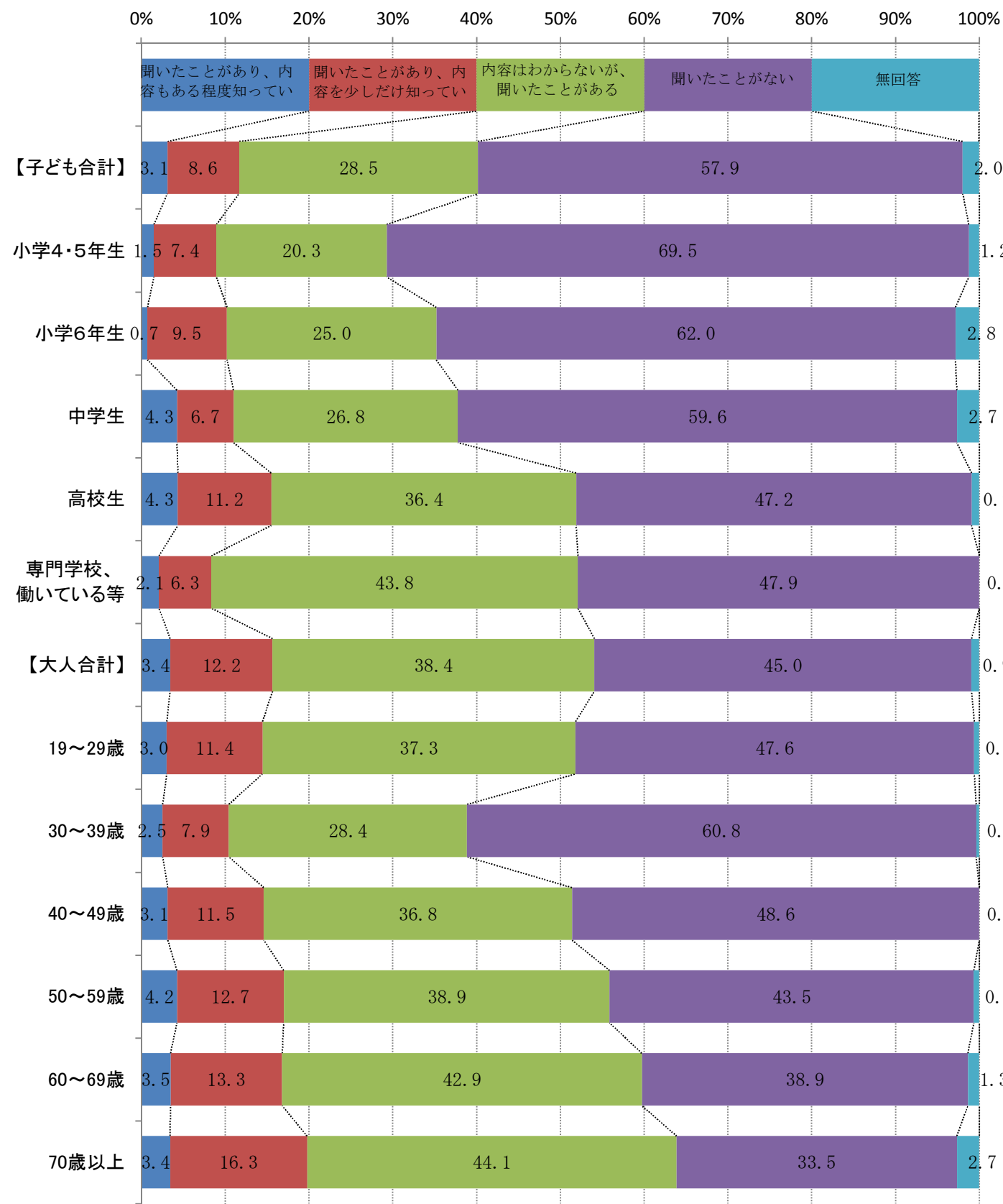
- 『思う（■・■の合計）』と回答した割合が 65.4%と前回から 12.2 ポイント上昇し、『思わない（■・■の合計）』と回答した割合が 33.3%と前回から 11.8 ポイント減少した。
- なお、クロス集計では、保護者の態度や家庭や学校などの様々な場面で意見を言うことができるか否かが「自分のことが好き」などの子どもの自己肯定感に大きく影響する結果となった。

(3) 子どもの権利が守られているか否か（子ども 10～12 歳設問なし）

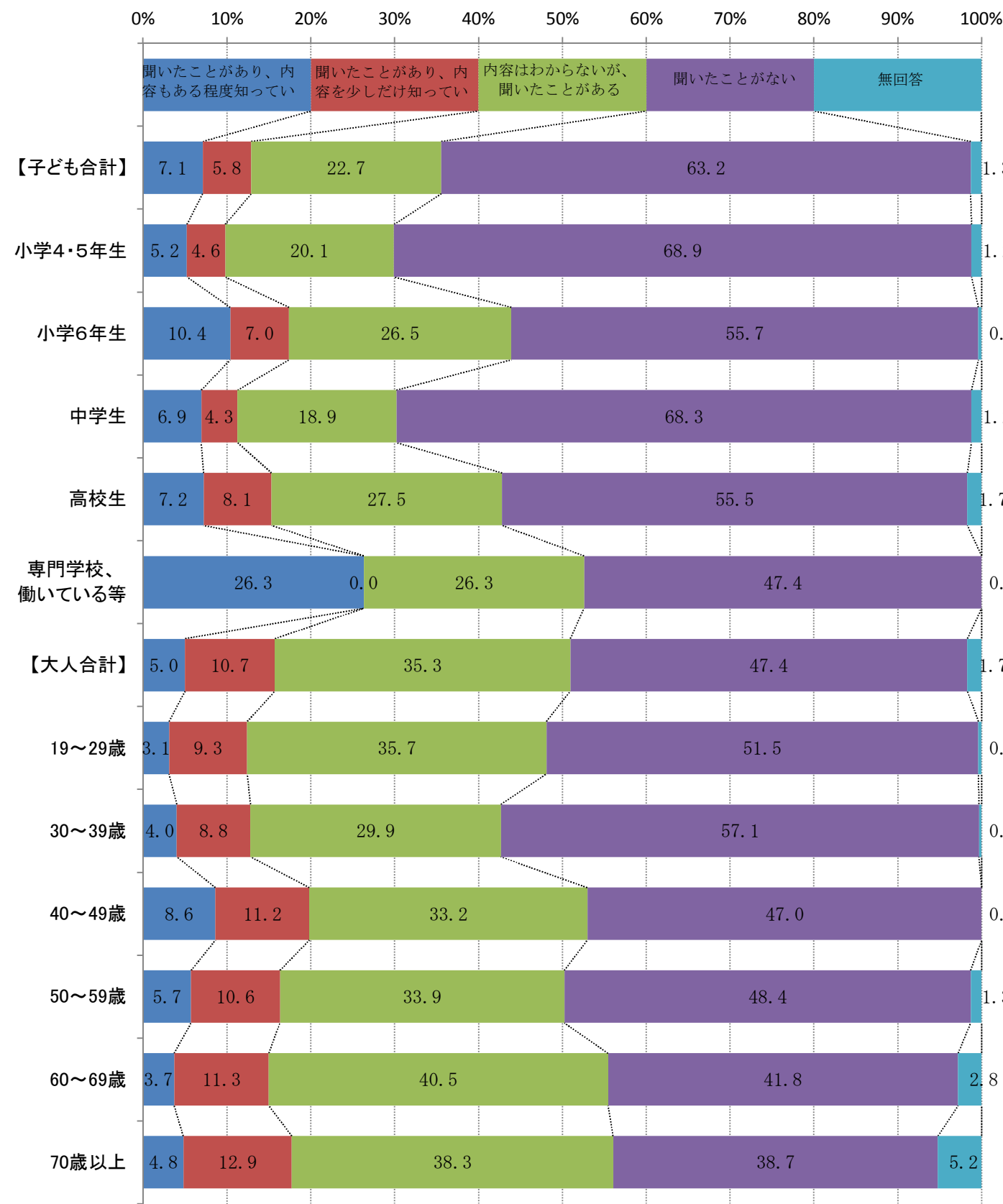


- 13～18 歳では、子どもの権利が『守られている（■・■の合計）』と回答した割合が 57.0%と前回から 8.7 ポイント上昇し、『守られていない（■・■の合計）』と回答した割合が 13.4%と前回から 8.0 ポイント減少した。
- 大人については『守られている』と回答した割合が 49.1%と前回から 0.7 ポイント上昇し、『守られていない』と回答した割合が 12.0%と 3.3 ポイント減少した。

■子どもの権利条例の認知度【今回：年代別集計】

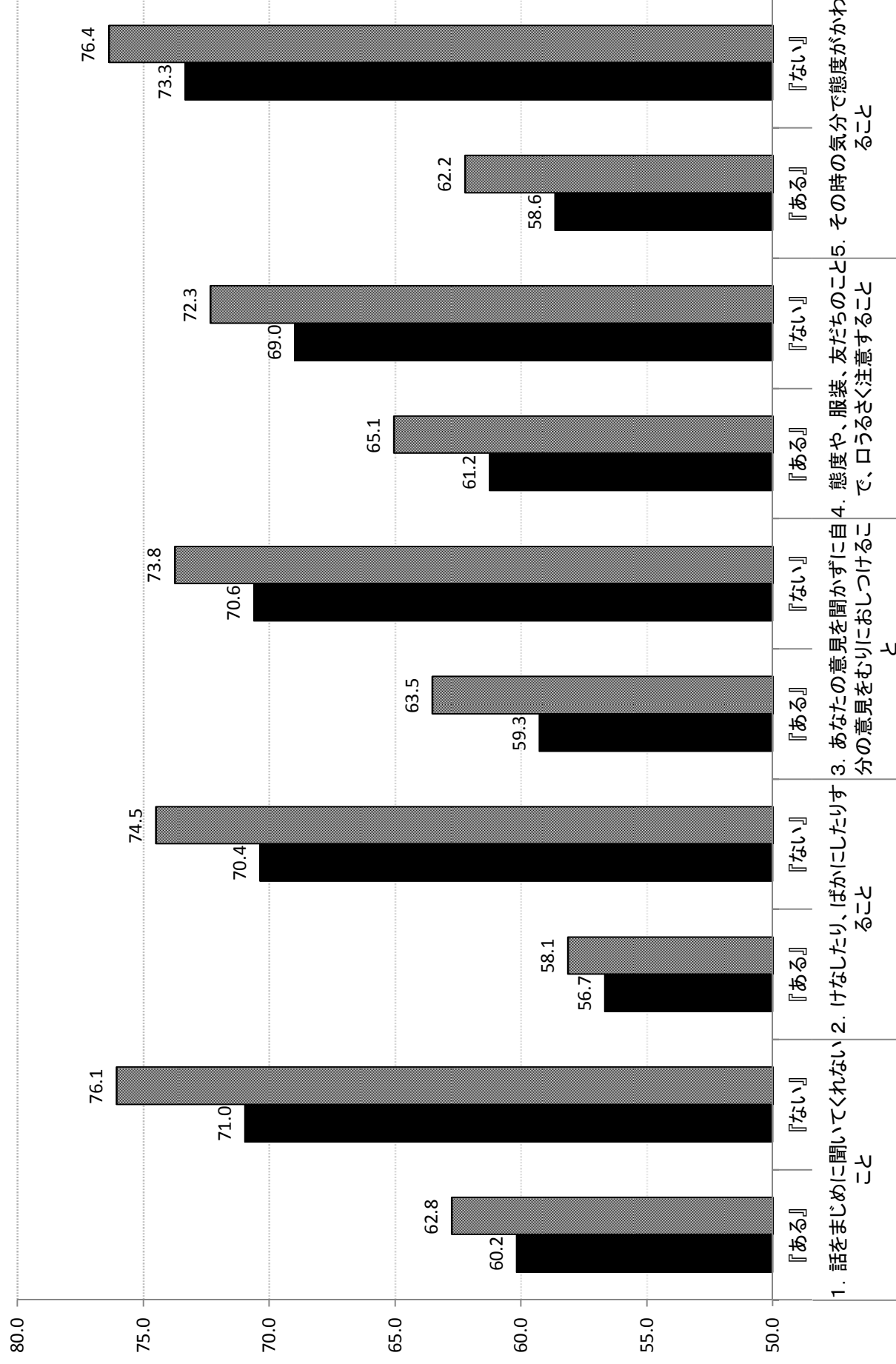


■子どもの権利条例の認知度【前回（H21年度）年代別集計】

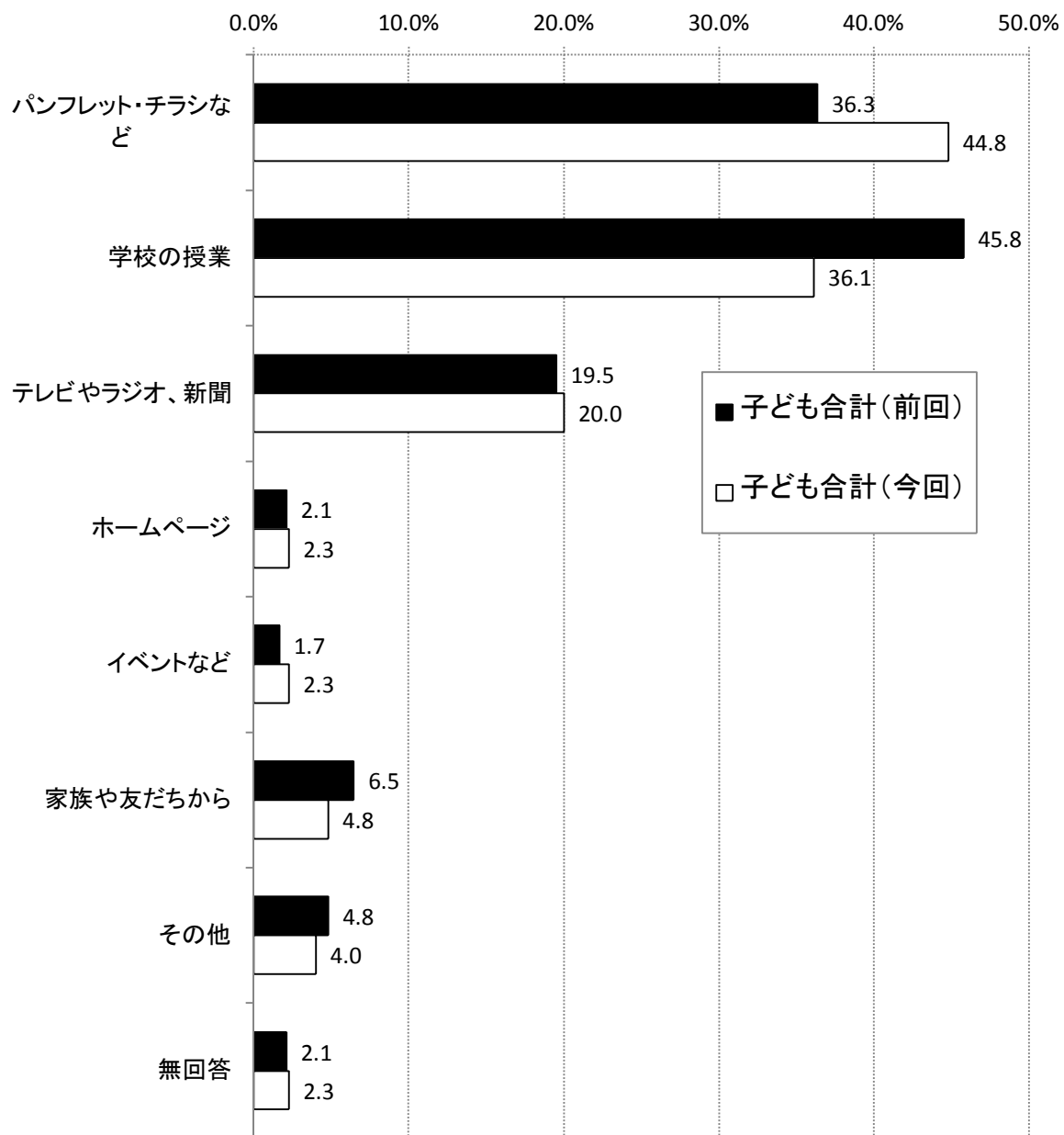


【クロス集計】「保護者の態度」×「自分自身をどう思うか」(13～18歳のみ)

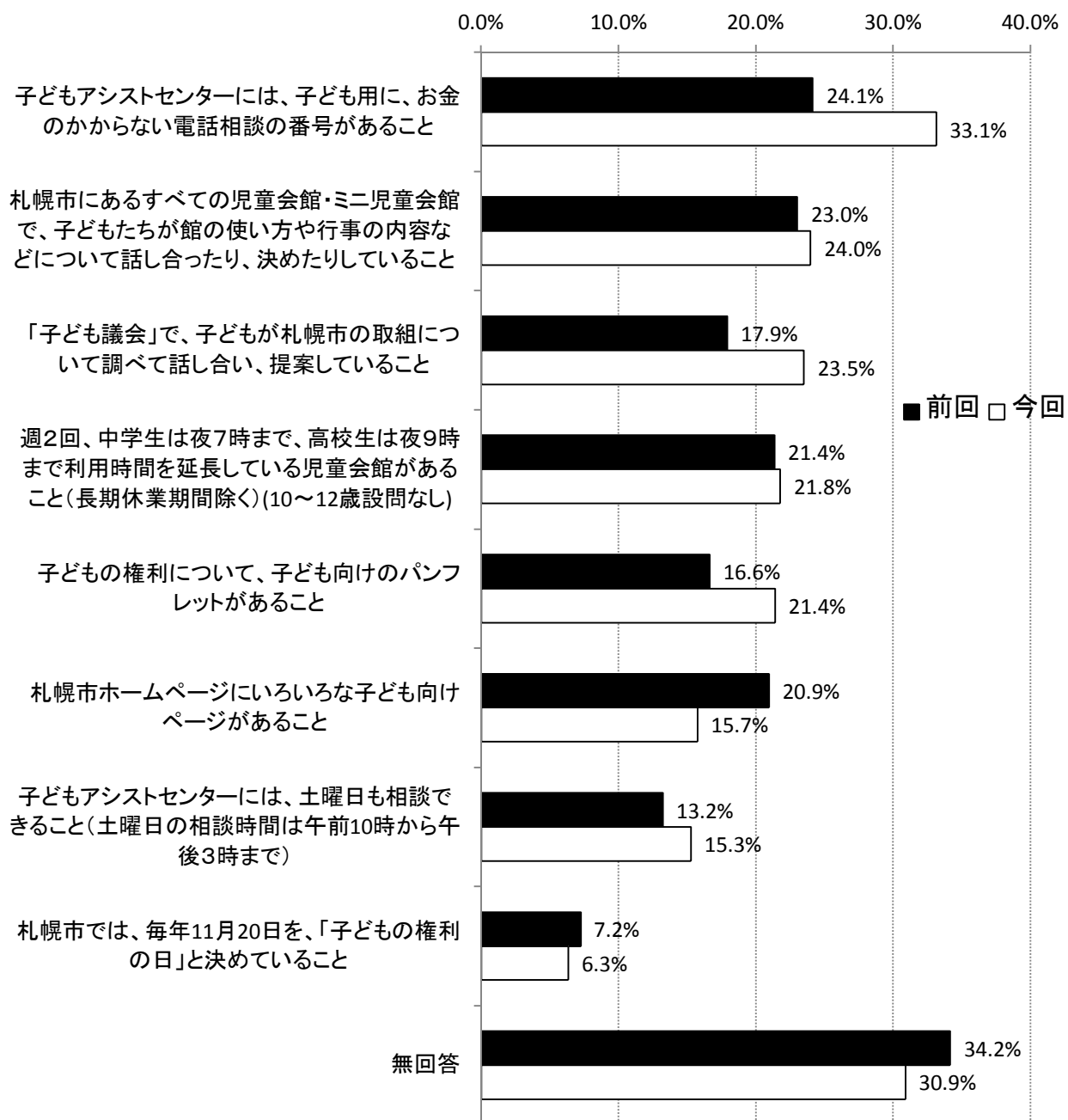
■ 良いところばかりではないが、自分のことが好きだと『思う』割合 ■ 自分は人から必要とされていると『思う』割合



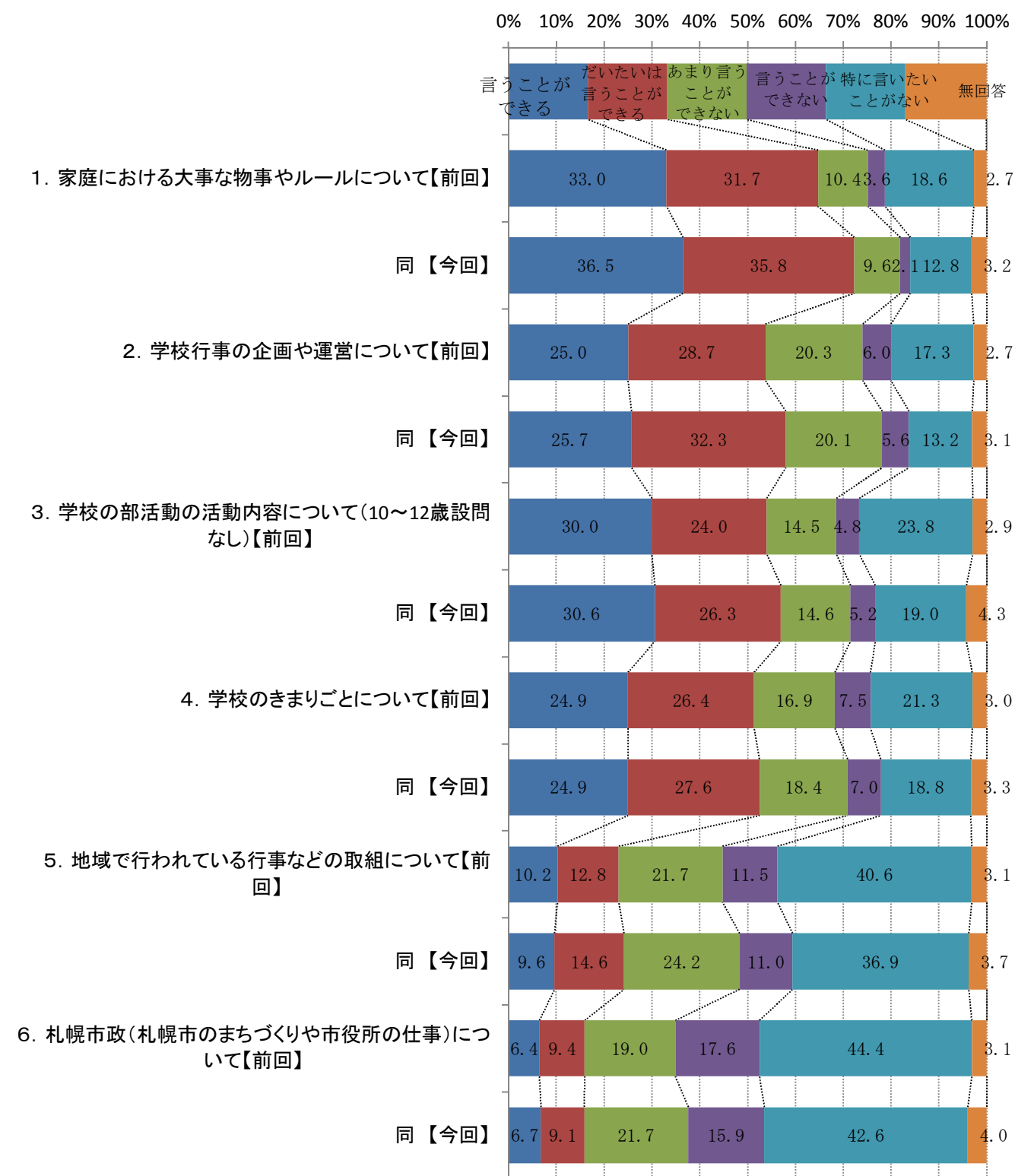
■子どもの権利条例の認知経路(子どものみ)



■子どもの権利等に関する施策の認知度(子どものみ)

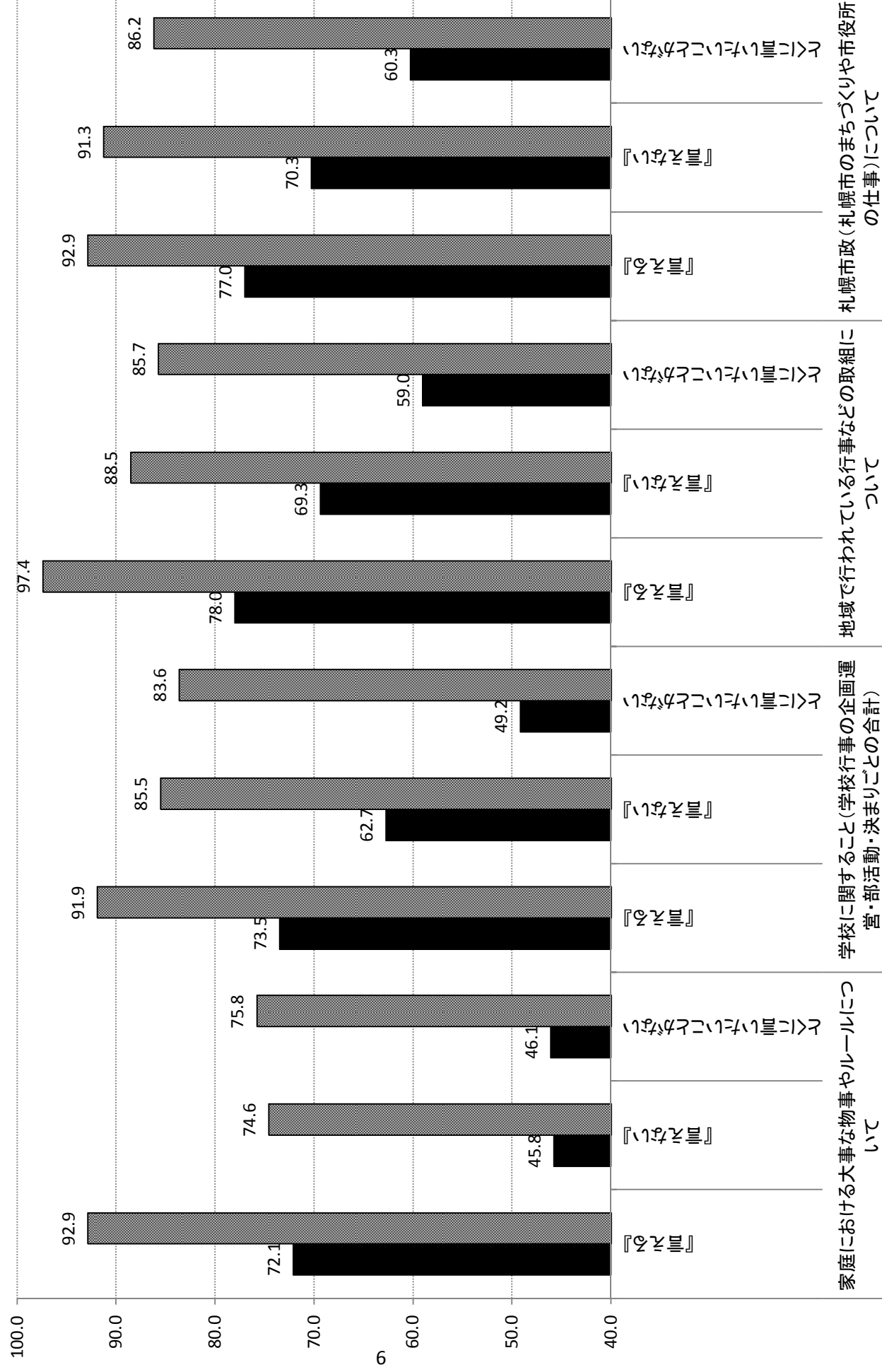


■自分の考えや思いがあるときに、それを言うことができるか
【子ども】



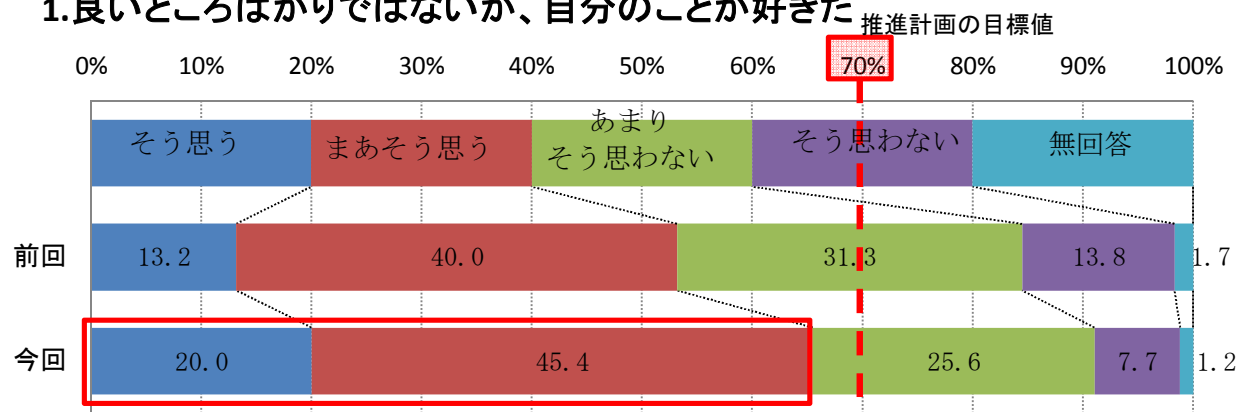
【クロス集計】「意見を言うことができる」×「自分自身をどう思うか」(13～18歳のみ)

■ 良いところばかりではないが、自分のことが好きだと『思う』割合 ■ 自分を大切に思ってくれる人がいると『思う』割合



■自分自身のことについてどう思うか
【13～18歳】(10～12歳:設問なし)

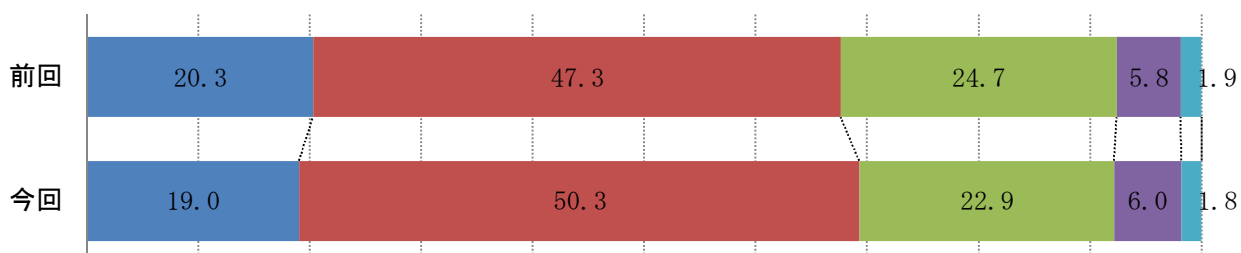
1.良いところばかりではないが、自分のことが好きだ



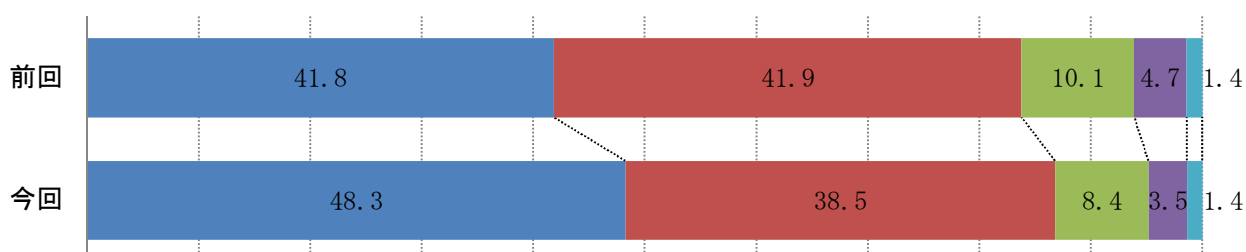
2.自分を大切に思ってくれる人がある



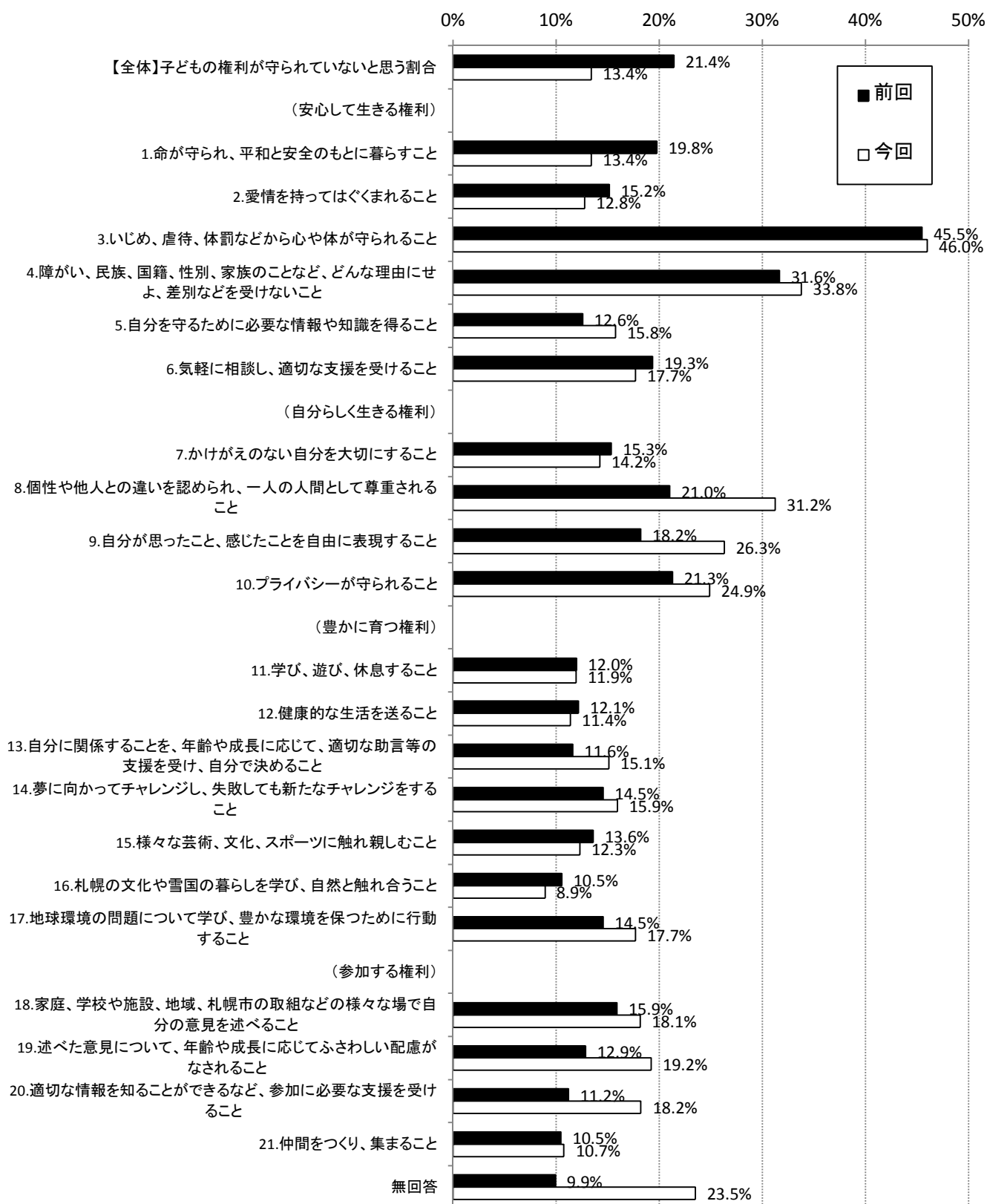
3.自分は人から必要とされている



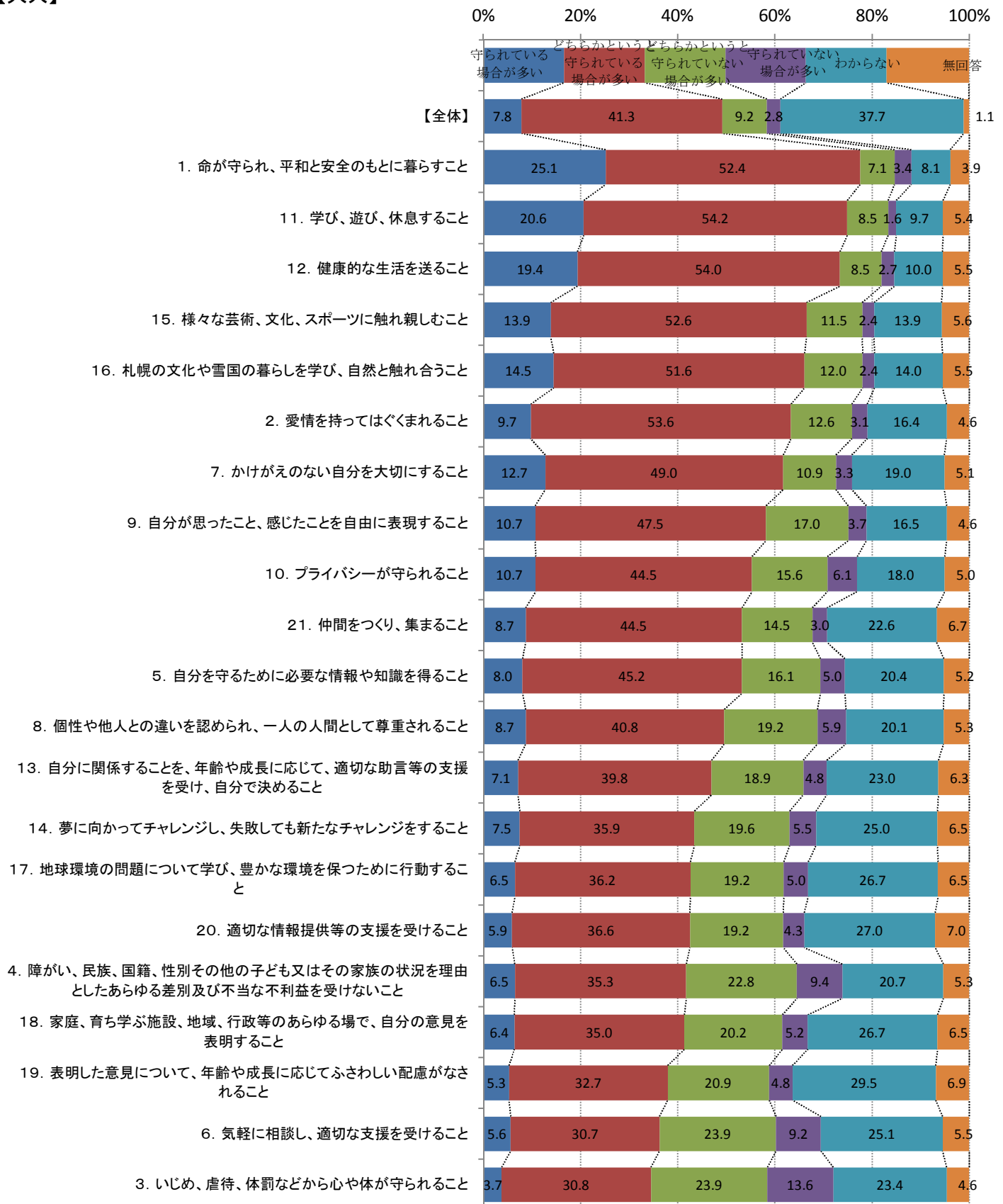
4.ほかのだれかや社会のために何かをしてあげたい

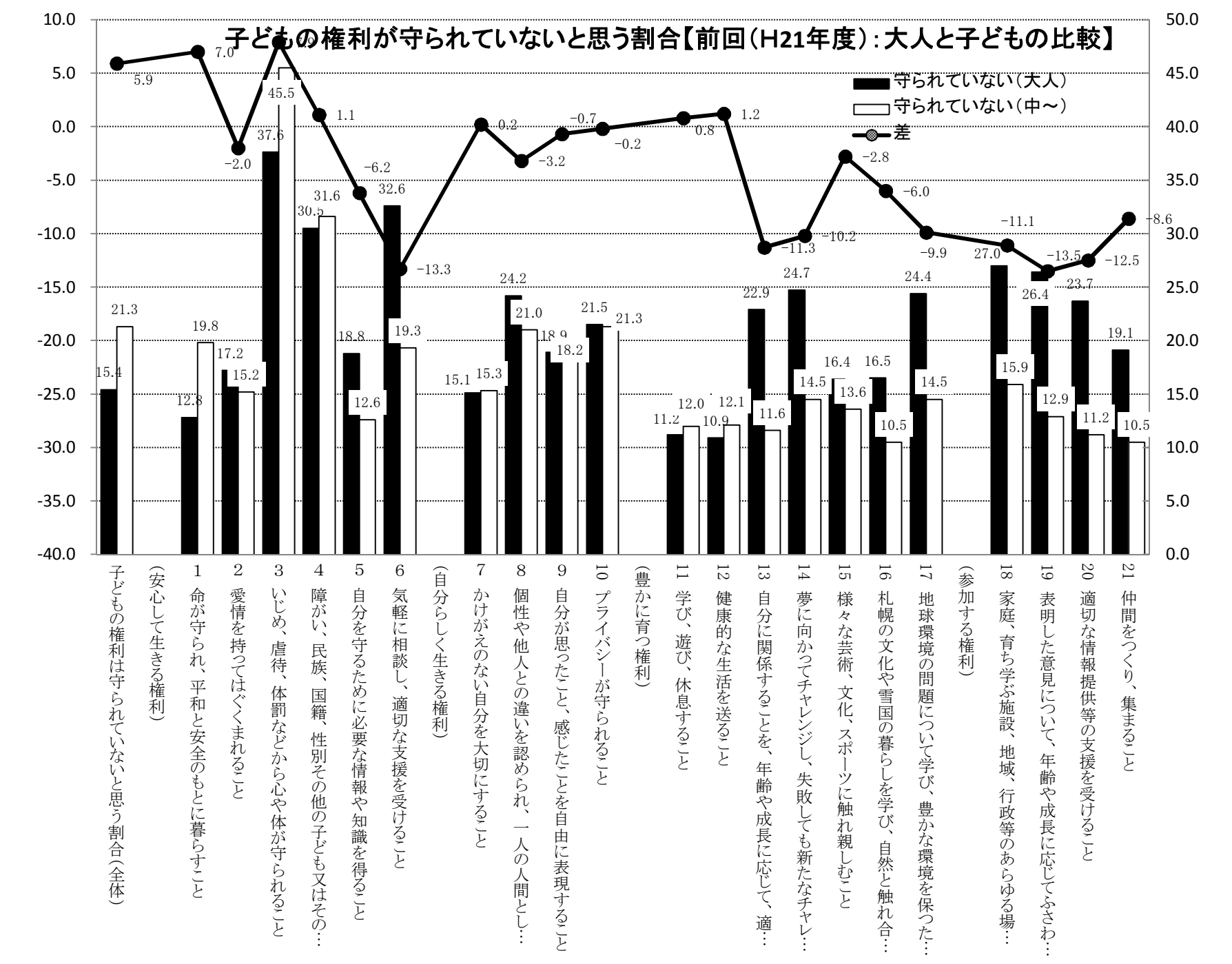
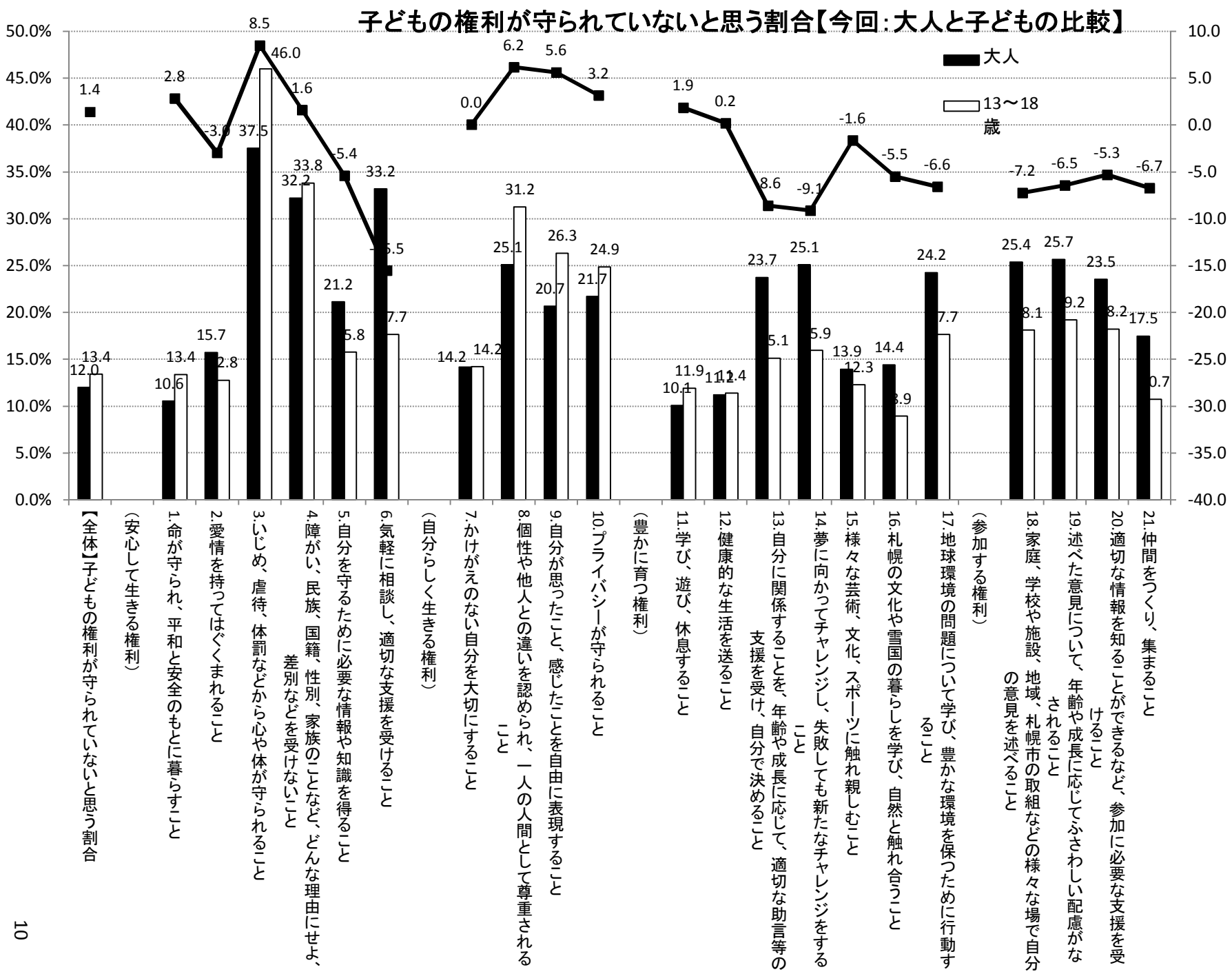


■ 条例に定められている権利で守られていないと思うもの
【13～18歳】



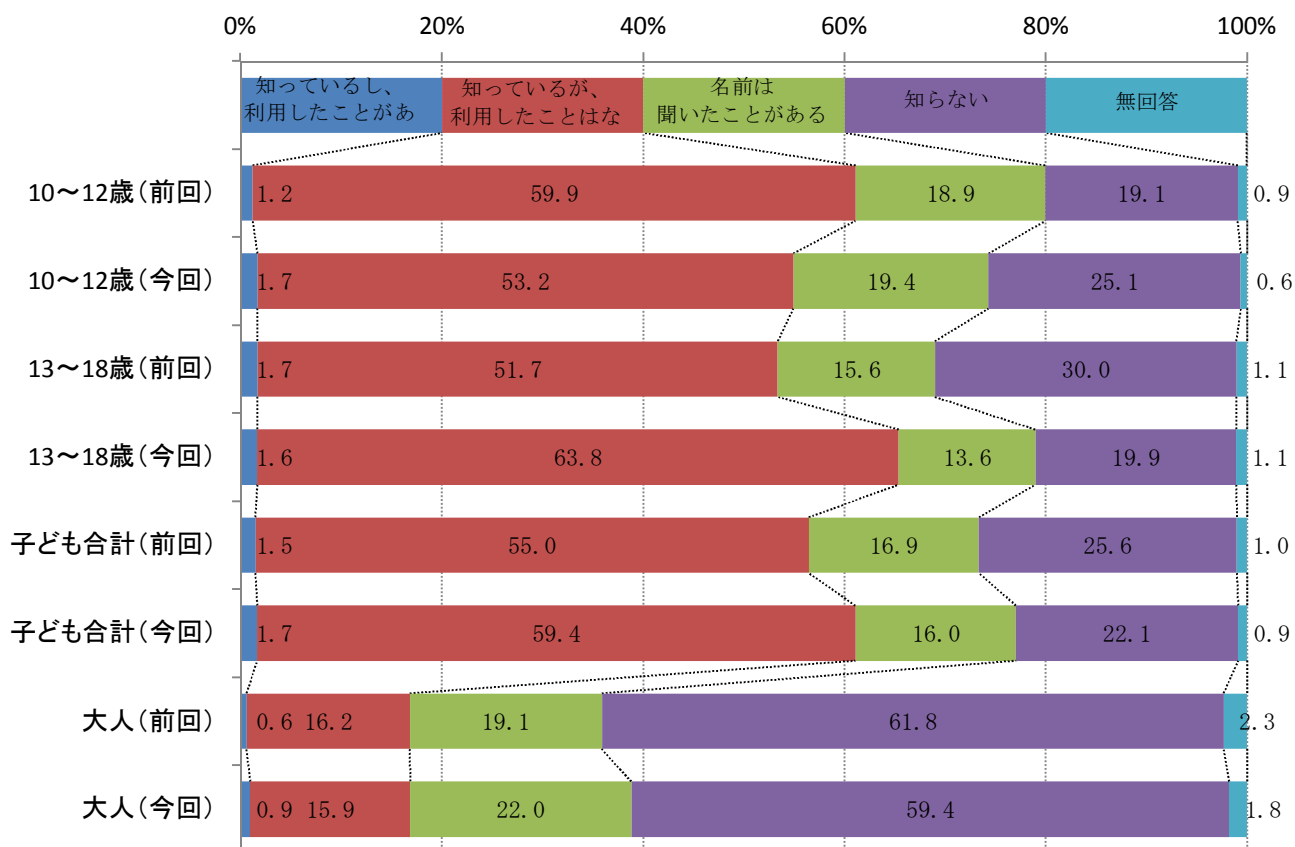
■ 条例に定める子どもの権利について 【大人】





■子どもアシストセンターの認知度

		知っているし、 利用したことがある	知っているが、 利用したことはない	名前が あるは聞いたこと	『知っている』	知らない	無回答
10～12歳	前回	1.2	59.9	18.9	79.9	19.1	0.9
	今回	1.7	53.2	19.4	74.3	25.1	0.6
	差	0.5	▲ 6.6	0.5	▲ 5.7	5.9	▲ 0.3
13～18歳	前回	1.7	51.7	15.6	69.0	30.0	1.1
	今回	1.6	63.8	13.6	79.0	19.9	1.1
	差	▲ 0.0	12.1	▲ 2.0	10.0	▲ 10.0	0.0
子ども 合計	前回	1.5	55.0	16.9	73.3	25.6	1.0
	今回	1.7	59.4	16.0	77.0	22.1	0.9
	差	0.2	4.5	▲ 0.9	3.7	▲ 3.6	▲ 0.1
大人	前回	0.6	16.2	19.1	35.9	61.8	2.3
	今回	0.9	15.9	22.0	38.8	59.4	1.8
	差	0.3	▲ 0.3	2.9	2.9	▲ 2.4	▲ 0.6



子どもに関する実態・意識調査の結果に対する課題

課題1 子どもの権利の広報普及、理解促進

○ 子どもの権利条例の認知度

子どもの権利条例を『聞いたことがある』（「内容もある程度知っている」、「内容を少しだけ知っている」、「内容はわからないが聞いたことがある」）は、子どもが40.2%と前回から4.6ポイント、大人が54.0%と3ポイント増加。一方で、「内容もある程度知っている」について、子ども・大人ともに減少。（資料4-1）

○ 年代別の認知度

子どもの認知度では、小学生4・5年生が29.2%と最も低く、大人では、30歳代が38.8%と最も低い結果となった。（資料4-1）

○ 保護者への理解・促進

保護者が「話をまじめに聞いてくれないこと」や「けなしたり、ばかにしたりすること」の有無が、子どもの「自分のことが好きだと『思う』」や「自分は人から必要とされていると『思う』」の結果に、10数ポイントの違いを生んでおり、保護者の態度が子どもの自己肯定感に大きな影響を与える結果となった。（資料4-2）

課題2 子どもの意見表明・参加について

○ 「自分の考えや思いがあるときに、それを言うことができるか」の結果

子ども自身が考えや思いを言うことができるかについて、「家庭」で言うことが『できる』（「言うことができる」と「だいたい言うことができる」）と回答した割合が前回より増加した。（資料4-5）

○ 「様々な場面において意見を言うことができる」と子どもの自己肯定感の関係

子どもが「家庭」や「学校」における大事な物事やルールについて意見を言えるかどうかによって、子どもの「自分のことが好き」の結果に、「家庭」では26.3ポイント、「学校」でも10.8ポイントの差が生じており、家庭や学校といった子どもにとって最も身近な環境が子どもの自己肯定感に大きく影響する結果となった。（資料4-6）

○ 「自分のことが好きだと思うか」（子ども）

『思う』（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）は、前回から増加し、『思わない』（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）については、前回から減少した。（資料4-7）

課題3 子どもの権利について

○ 守られていないと思う「子どもの権利」(子ども)

全体として「守られていない」と思う割合は、13.4%と前回から8ポイント減少。

条例に規定する個別の権利で、最も守られていない割合が高いものは、「いじめ、虐待、体罰などから心や体が守られること」となっており、前回と同様の結果となった。(資料 4-8)

○ 子どもの権利について(大人)

全体として「守られていない」と思う割合は、12.0%と前回から3.1ポイント減少したが、『守られている』は前回から微増に留まった。個別の権利では、子どもと同じく「いじめ、虐待、体罰などから心や体が守られること」が、『守られていない』と回答する割合が最も高い結果となった。(資料 4-9、4-10)

○ 大人と子どもの比較(個別の権利)

「いじめ、虐待、体罰など～」は子ども・大人ともに最も守られていないと認識しているが、大人と比較して子どもの方がより守られていないと認識しており、その差も8.5ポイントと最も大きくなっている。(資料 4-10)